

# サイバー大学におけるマイクロクレデンシャル制度 (2025年時点)と学生福利厚生

## マイクロクレデンシャル制度の概要と導入経緯

サイバー大学では、2024年4月から国内初となるマイクロクレデンシャル制カリキュラムを導入し、学位取得に至る学習過程を小さな単位で証明できる仕組みを開始しました<sup>1</sup>。従来は4年間の学習成果を学士号でしか示せませんでしたが、技術革新が速い現代に対応するため、学習内容を細分化し特定分野の知識・スキルを柔軟に習得・証明できる制度へ移行したものです<sup>2</sup><sup>3</sup>。マイクロクレデンシャルとは、学習者が修得した特定の知識・技術・態度等を小さな単位で認証するコンピテンシーモデルであり、本学ではこれを国際標準規格のデジタル証明「オープンバッジ」によって発行します<sup>4</sup><sup>5</sup>。これにより学生は、従来の学位だけでは表現できなかった細分化されたスキルをデジタル証明でき、履歴書やSNSで公開して就職・転職活動に活用することも可能となりました<sup>6</sup><sup>7</sup>。オープンバッジはブロックチェーン技術を用いた改ざん不可能な認証基盤であり、Web上の共有・検証が容易で国際通用性と永続性も備えています<sup>8</sup>。

導入の背景として、サイバー大学では従来よりITとビジネス両面の高度IT人材育成を目的にIT総合学部を設置し、卒業生に「IT総合学」の学士号を授与してきました<sup>9</sup>。しかし企業では学位以上に専門分野別の実践スキルを重視する傾向が強まっており、短期間で特定分野の学習歴を証明する「マイクロクレデンシャル」が世界的に注目されていました<sup>10</sup>。こうした潮流を受け、本学は既存の学士課程（マクロクレデンシャル）を専門テーマごとの小クラスターに再編成し、修了した複数科目群ごとにマイクロクレデンシャル（オープンバッジ）を発行する新カリキュラムを開始しました<sup>11</sup><sup>12</sup>。この移行に際しては、従来の「コース・プログラム制」の課題を解決する狙いもありました。2023年度まで本学はコース・プログラム制を採用し、学生は3年次進級までに専攻プログラムを一つ選択してそのプログラム専用の卒業研究科目を履修する仕組みでした<sup>13</sup><sup>14</sup>。しかし3年次以降の専門科目では多様な履修ニーズに配慮し、本来必修とすべき科目も「推奨科目」に留めていたため、専門教育の効果が限定的になるという課題が生じていたのです<sup>15</sup>。マイクロクレデンシャル制への移行によってこの問題に対処し、体系的な履修と質保証を強化しています<sup>16</sup><sup>17</sup>。大学側は「学修成果の記録であること」「シラバス等で明確な評価基準に基づき評価すること」等の基本方針を定め、マイクロクレデンシャルごとの修了証明に社会的信頼性を持たせています<sup>18</sup>。

## マイクロクレデンシャル制度の内容・設計

サイバー大学のマイクロクレデンシャル制度では、開講科目すべてを分野別・レベル別にグループ化し、所定の科目群を修了するごとに段階的なデジタル証明（オープンバッジ）が発行されます<sup>19</sup><sup>20</sup>。学生は自分に必要な専門科目を選択し、基礎から応用まで段階的にスキルアップしながら各段階の修了証明を得ることができます<sup>21</sup>。バッジには習得難易度に応じた4段階（ブロンズ、シルバー、ゴールド、プラチナ）が設定されており、下位から順に取得していくのが原則です<sup>22</sup><sup>23</sup>。以下の表に各バッジのレベル、内容、取得条件、特徴をまとめます。

バッジランク	証明する内容	主な取得条件	特徴・位置付け
ブロンズ	IT基礎力の証明	専門必修科目8科目（16単位）の修得 <sup>24</sup>	全学生がまず取得する基本バッジ <sup>25</sup> 。ITリテラシーや基礎知識を身につけた証明。

バッジ ランク	証明する内 容	主な取得条件	特徴・位置付け
シル バー	専門分野の 基礎力	選択した専門 分野の基礎科 目群の修得 <sup>16</sup>	専門性の方向性を示すバッジ <sup>16</sup> 。技術系・ビジネス系そ れぞれ複数の基礎バッジがあり、自分の志向する分野の土 台を固めたことを示す。
ゴール ド	実践的な専 門知識・技 能	選択した専門 分野の応用科 目群の修得 <sup>16</sup>	実践力を証明するバッジ <sup>16</sup> 。高度専門科目の履修修了を 示し、即戦力スキルの習得を証明できる。有志で複数の <b>ゴールドバッジ取得も可能</b> <sup>12</sup> <sup>17</sup> 。
プラチ ナ	最高位の専 門性（研究 レベル）	卒業研究を含 む上級科目の 修得 <sup>16</sup>	<b>最上位のバッジ</b> で、研究能力まで備えたことを証明 <sup>16</sup> 。 各学生1分野のみ取得可能（卒業研究は1テーマのため）で ますが、学部在学中に <b>複数分野を極め“副専攻”的に学ぶこと</b> も奨励 <sup>12</sup> <sup>17</sup> 。

対象分野は非常に多彩で、IT系では「AI」「データサイエンス」「セキュリティ」「ネットワーク」「ソフトウェア」等、ビジネス系では「起業（アントレプレナーシップ）」「経営」「マーケティング」「マネジメント（管理）」等が用意されています <sup>18</sup>。学生は自分の関心やキャリア目標に応じて複数の分野を組み合わせて履修できます。実際、専門科目のマイクロクレデンシャルは**スタッカブル（積み上げ可能）**な構造になっており、従来は1つしか選べなかった専攻プログラムを、**新制度では複数修了して複数バッジを取得することで「副専攻」を持つような学びも可能となりました** <sup>12</sup> <sup>17</sup>。例えば、ソフトウェアエンジニア志望の学生が「ソフトウェア」分野のプラチナバッジ（卒業研究付）を取得しつつ、ビジネス系の「起業」分野でもゴールドバッジを取得するといったケースがあり得ます <sup>19</sup>。逆にAIを軸にテクノロジー系を網羅したい学生は、ネットワーク・セキュリティ・ソフトウェア・AIといった**テクノロジー系すべてのゴールドバッジ**を取得することも可能です <sup>19</sup>（ただしプラチナは卒業研究の関係上1つのみ）。このように**学生の多様な学習ニーズに応える柔軟性**が特徴です。

加えて、教養教育にも力を入れており、**リテラシー系のオープンバッジ**も設定されています <sup>20</sup>。たとえばシルバーバッジとして「アカデミックライティング」「コミュニケーション」「実践英語Ⅰ・Ⅱ」などが用意され、IT・ビジネス専門科目以外の汎用的スキルについても段階的に証明が得られます <sup>20</sup>。これら教養・語学分野のバッジは、専門バッジと組み合わせて学生の総合力を示すものとして機能します。

**修了要件・評価方法**としては、各バッジ取得に必要な科目群を履修し所定の成績評価に合格することが条件です。評価自体は科目ごとの試験・課題で行われ、一定の基準（シラバスで明示）を満たせば単位を認定し、併せて該当バッジを授与します <sup>11</sup>。オープンバッジ発行時には、取得者名や取得日時、科目名・成績等のメタデータが埋め込まれるため、バッジを閲覧するだけでどのような能力をどう修得したかが第三者にも分かる仕組みです <sup>21</sup>。このように**履修履歴の「見える化」**が図られており、学生にとって達成感の醸成や継続学習の強力な動機付けになっています <sup>4</sup> <sup>22</sup>。

証明の形式は前述の通り**オープンバッジ（Open Badge）**です。これはIMS Global（現EdTech）による国際標準規格に準拠したデジタル証明書で、取得者が自由にWeb上で提示できます <sup>5</sup>。各バッジにはレベルや分野、発行元（サイバー大学）、取得要件の情報が含まれ、企業の採用担当者等はバッジから具体的なスキル内容を確認できます <sup>6</sup> <sup>23</sup>。サイバー大学のバッジは基本的に**ブロンズ→シルバー→ゴールド→プラチナ**の順序で取得し、条件を満たせば複数種類のバッジも取得可能です <sup>21</sup> <sup>24</sup>。最上位プラチナは各学生1つに限定されますが、ゴールド以下は**複数取得が可能**なため、興味や必要に応じて複数分野の専門バッジをコレクションする学生も出てきています <sup>25</sup> <sup>15</sup>。

## マイクロクレデンシャル導入の目的と効果・連携状況

本制度の目的は大きく分けて(1)学習成果の細分化証明によるスキル可視化、(2)履修インセンティブの向上、(3)卒業後の継続学習支援の3点にあります。まず(1)について、マイクロクレデンシャルにより学生は「AIプログラミングのゴールドバッジ保持者」など明確な形で自身の専門スキルレベルを示せます<sup>26</sup>。これは就職・転職の自己PR資料や社内評価、フリーランスの実績証明、さらには海外大学・企業へのアピールにも有効です<sup>27 28</sup>。従来は履歴書に「○○の知識あり」程度の抽象的記載しかできなかつたものが、バッジによって客観的エビデンス付きで具体的スキルを証明できるようになりました<sup>29</sup>。

次に(2)のインセンティブ向上ですが、本学では各マイクロクレデンシャル修了時にオープンバッジが発行されることで、「次はこのバッジを取ろう」というゲーミフィケーション的な動機付けが生まれることを期待しています<sup>30</sup>。実際、学習成果が形になることで達成感が増し、学び続ける意欲につながっているとの報告があります<sup>4 22</sup>。2024年4月の制度開始から半年余りで、既に在学生の中には新しいバッジ取得を目指して履修計画を積極的に立て直したり、卒業生が再入学して追加のバッジ取得に挑戦したりする動きも見られています<sup>31 32</sup>。このように「学歴から学習歴へ」と標榜するとおり、学生一人ひとりの長期的なキャリア形成を支える持続学習モデルとして効果を上げ始めています<sup>33</sup>。

さらに(3)の継続学習支援では、知識の陳腐化が早いIT業界に対応して卒業後も新技術を学び直す仕組みとしてマイクロクレデンシャルが機能します<sup>34 35</sup>。本制度では科目体系のアップデートも迅速化されており、導入後早速生成AI活用など最新トレンドを反映した新クレデンシャルの開設が進んでいます<sup>36</sup>。学生は卒業後でも科目等履修生として再入学し、新設のバッジを取得したり既存スキルを更新したりできます<sup>37 38</sup>。例えば2025年7月には「デジタルマーケティング」ゴールドバッジ（ITスキル標準レベル2相当）を2026年度から新設することが発表され、データ分析やCX設計、戦略立案スキルを体系的に学べるプログラムとしてリスキリング人材向けに提供予定です<sup>39 40</sup>。このように社会のニーズに合わせて柔軟かつ機動的に教育プログラムを追加・更新できる点も、マイクロクレデンシャル導入の大きな効果です<sup>41 35</sup>。

他大学・企業との連携について、サイバー大学のマイクロクレデンシャル制度自体は本学独自に構築されたものですが、基盤技術や運用面で外部との協働があります。例えばオープンバッジ運用では日本1EdTech協会やオープンバッジ・ネットワークと連携し、標準規格に則った発行体制を整備しています<sup>42 6</sup>。本学の取組は高く評価されており、2024年には国内教育機関で初めて「オープンバッジ大賞」の大賞を受賞しました<sup>43</sup>。またマイクロクレデンシャルの各バッジには、独立行政法人IPAが定めるITスキル標準（ITSS）のレベル指標を対応付けており（例えば前述のデジタルマーケティング=レベル2相当）<sup>44 45</sup>、産業界に通用するスキル水準との整合も図られています。さらに他大学との単位互換協定も活用されています。例えば国立佐賀大学との間では2018年からコンソーシアム佐賀を通じて相互に単位互換を実施しており、佐賀大学の正規学生がサイバー大学のオンライン科目を履修し、一定範囲で佐賀大学の卒業単位として認定される制度があります<sup>46</sup>。このような学外連携により、本学のオンライン教育リソースとマイクロクレデンシャルが他機関にも活かされつつあります。

## 導入前の資格・単位認定制度とその比較

マイクロクレデンシャル導入以前、サイバー大学には大きく二つの「資格・単位認定」制度が存在していました。一つは先述のコース・プログラム制による内部カリキュラム上の資格（=専攻プログラム修了要件）、もう一つは公的資格等による単位認定制度です。前者については既に触れた通り、従来は3年次までに「テクノロジーコース」「ビジネスコース」等から一つのプログラムを選択し、そのプログラムに沿った専門科目・卒業研究を履修する形でした<sup>9</sup>。各プログラムの修了（=卒業要件充足）が一種の「資格」として機能し、卒業時の学位記にプログラム名（専攻分野）が記載される運用でした。しかしこの制度では学生は一専攻しか履修できないため、横断的な学びには限界がありました。また科目選択の自由度を持たせるあまり、一部必要な専門科目が厳格には履修されず卒業に至るケースも生じ、学習成果が学位基準に集約されてしまうという課題がありました<sup>10</sup>。言い換えれば、旧制度下では「ある分野を深く学んだ」という事実が学士

号以上には明示されず、在学中の中間成果が可視化されにくい状況だったのです<sup>3</sup>。評価方法も通常の科目ごとの成績評価のみで、中間的な科目群修了証明やデジタル認証は存在しませんでした。

他方、後者の公的資格等による単位認定制度は、サイバー大学の大きな特色でした。これは学生が入学後に取得した各種資格を、本学の科目履修に相当すると見なして単位を認定する制度です<sup>47 48</sup>。対象となる資格は情報処理技術者試験や英語検定、ビジネス関連検定など多岐にわたり、例えば「日商簿記3級以上」「秘書検定2級以上」「TOEFL/TOEIC一定スコア」など実用性の高い資格が幅広く含まれていました<sup>49</sup>。実際の運用では、学生が資格取得後に申請を行い、所定の条件を満たせばその資格に対応する特定科目について履修免除と所定単位の認定が受けられます<sup>50 51</sup>。大学全体で最大30単位までこうした認定単位として卒業要件に充当できるケースがあり<sup>52</sup>、多くの学生がこの制度を活用して効率的な卒業を目指していました<sup>52</sup>。例えば、2017年当時の在学生の報告ではIELTS（英語資格）合格により英語科目8単位、応用情報技術者試験合格で専門科目4単位が認定され、合計12単位（約25万円相当の授業料）を節約できた例があります<sup>53</sup>。サイバー大学の場合、情報処理推進機構(IPA)実施の国家試験4種（ITパスポート、情報セキュリティマネジメント、基本情報技術者、応用情報技術者）も認定対象で、試験区分ごとに2~4単位程度が認定されていました<sup>54 55</sup>。この制度により、社会人学生が既に持っている実務資格を活かして学習期間を短縮したり、資格取得と大学勉強を両立させたりできるメリットが提供されていました<sup>49 52</sup>。

**評価方法と利点・課題**を整理すると、旧来のコース・プログラム制では大学内の成績評価に基づき最終的に学位（および専攻名）が与えられるだけで、中間の学習成果を対外的に示すのは困難でした<sup>3</sup>。学生にとっては柔軟に科目選択できる自由度がある反面、「自分がどの程度専門スキルを身につけたか」を客観的に証明する手段が学位取得まで無かったため、在学中のモチベーション維持や就職活動でのアピールに不利な面がありました。一方、資格による単位認定制度は学生に大きな利点をもたらし、授業に出なくても資格合格で単位取得が認められるため時間と学費の節約になりました<sup>52 53</sup>。特に社会人や既に専門知識を持つ学生にとって、実力を可視化して評価してもらえる公平な仕組みといえます。しかし課題として、認定には上限が設定され（本学の場合30単位まで）<sup>56 52</sup>、全ての卒業要件を資格で置き換えることはできません。また資格取得時期が入学後であること等の条件もあり<sup>57</sup>、計画的な受験が必要でした。さらに資格で認定された科目は成績評価（グレード）が付与されないことが一般的で、成績表上「認定済」となるのみのため、GPA等には反映されず学修の質的側面を完全に示せないという限界もありました。

導入後との比較では、マイクロクレデンシャル制度により従来の欠点は大きく改善されています。まずコース・プログラム制で不足していた中間成果の見える化が、ブロンズ～プラチナ各段階のオープンバッジ発行によって達成されました<sup>4 16</sup>。学生は在学中から逐次取得バッジを履歴書等に掲載できるため、4年間待たずにスキル証明を活用できます。また一専攻しか選べなかった制約もなくなり、複数分野の専門知識を横断的に修めたことをデジタル証明できるようになりました<sup>17 58</sup>。例えば旧制度下で「ネットワーク専攻だったがAI分野も興味がある」という場合、AI関連科目を履修しても専攻外では学位に表れませんでしたが、新制度ではネットワークとAI両方のバッジ取得が可能で双方の専門性を証明できます。さらに資格単位認定制度でカバーしていた「学外の学習成果を評価する」点も、マイクロクレデンシャルが内包し始めています。すなわち、大学の科目履修そのものが資格取得と直結する設計（例：応用科目群修了＝業界標準スキル習得）になり、大学発行のデジタル資格として機能するため、社外で別途資格試験を受けずとも大学の単位取得が直接スキル証明になるメリットがあります<sup>59 60</sup>。もっとも、サイバー大学は「従来の単位認定や学位も大切にしつつ、マイクロクレデンシャルも活かしていく」と述べており<sup>61</sup>、既存の卒業要件や単位互換制度も引き続き維持されています。実際、資格による単位認定制度や他大学との単位互換は2025年時点でも利用可能です。したがって、新旧制度は対立するものではなく、従来の学位・単位制度を土台に据えつつマイクロクレデンシャルが付加価値を与える形で両立しています<sup>61</sup>。総じて、マイクロクレデンシャル導入により本学の教育モデルは「学位（マクロ）」と「スキル証明（マイクロ）」の二本柱となり、学生にとって学びの成果を最大限に活かせる環境へと進化したといえます。

## 2025年現在の学生向け福利厚生・サポート制度

サイバー大学は日本初のフルオンライン大学として、在学生に対し多角的なサポート体制と福利厚生サービスを提供しています<sup>62</sup>。以下では、主要な項目ごとに最新情報に基づき概要をまとめます。

### 図書館の利用（電子・物理）

在学生はサイバー大学附属図書館の資料および提携電子図書館サービスを利用できます。附属図書館にはIT・ビジネス分野を中心とした約17,000冊の蔵書があり、希望資料は学生に郵送貸出する仕組みをとっています<sup>63</sup>。これは通信制学生でも物理的な書籍を利用できるよう配慮したもので、全国どこからでも蔵書を取り寄せ可能です。また、学術研究に役立つ電子ブックサービスとしてMaruzen eBook LibraryやKinoDenを導入しており、学生はインターネット経由で多数の専門書・論文集にアクセスできます<sup>63</sup>。これら電子図書館には24時間いつでもログインでき、検索・閲覧・一部印刷等が可能なため、オンライン大学の強みを活かして時間や場所に制約されない学習リソース環境を整えています。さらに、図書館サイトでは文献データベースの案内やレンタルサービスも提供されており、在学生は自宅にいながら充実した図書・情報資源にアクセスできる状態です<sup>64</sup><sup>63</sup>。

### 学割（交通・ソフトウェア・施設利用など）

サイバー大学は正式な大学教育機関であるため、正科生（本科生）として入学すると学生証が発行され、一般的な学割が適用されます<sup>65</sup>。つまり、在学証明によって各種サービスの学生割引を受ける資格が与えられます。ただし具体的な割引の可否や内容は提供元の判断によるため、「必ず全て使える」とは限らない点には注意が必要です<sup>65</sup>。例えば、公共交通機関のJR学生旅客運賃割引（いわゆる学割証による鉄道割引）については、スクーリング等で定期的な通学が不要な通信制大学の場合適用が制限されるケースがあります<sup>66</sup>。実際にサイバー大学では通学の必要がないためJRの学割証は発行されず、定期券通学割引も利用対象外とされています<sup>66</sup>。一方で、航空各社の学生割引運賃や一部の路線バス・高速バス割引は学生証の提示により利用可能な場合があります<sup>67</sup>。また携帯電話キャリアの学割プラン（新規契約時の割引）やインターネットプロバイダ料金の学割も利用できると報告されています<sup>68</sup>。デジタルサービス面では、映画館やテーマパークの学生料金、MicrosoftやAdobe等のソフトウェアの学生ライセンス価格、さらにはAmazon Prime Student（学割版プライム会員）など、各種民間サービスの学割プランをサイバー大学の学生証で受けることができます<sup>69</sup>。例えばApple MusicやSpotifyの学生プラン、Adobe Creative Cloudの学生版、Microsoft Officeの教育機関向け無償利用（大学発行のメールアドレスで認証）等も利用可能です。要するに、「通学」を要件としない幅広い学生向けサービスについては、他大学と同様にサイバー大学生も恩恵を受けられます。ただし各サービスごとに条件や手続きが異なるため、利用の際は学生証や在学証明書の提示方法、更新期限などを確認する必要があります<sup>65</sup>。なお科目等履修生（非学位コースでの履修者）には学生証ではなく受講証しか発行されず、この場合学割適用は認められません<sup>48</sup>。

### 就職・キャリア支援

サイバー大学はキャリア支援にも力を入れており、専門資格を持つスタッフが常駐する「キャリアサポートセンター」を設置しています<sup>70</sup>。同センターには国家資格キャリアコンサルタントや公認心理師・臨床心理士などの有資格者が在籍し、新卒就職や転職に関する個別相談に応じています<sup>70</sup>。具体的なサポート内容は、履歴書・エントリーシートの添削指導、模擬面接による練習、キャリア全般のカウンセリングなど多岐にわたります<sup>70</sup><sup>71</sup>。学生はオンラインで予約すれば、スタッフと1対1で面談し進路相談や応募戦略のアドバイスを受けることができます。特に通信制で自律的に学ぶ学生は年齢や経験も多様なため、センターでは新卒学生向け支援（就活ノウハウ提供、インターン紹介等）と社会人・転職志向者向け支援（キャリアエンジン相談、実務経験活かした応募戦略等）の双方に対応しています<sup>72</sup><sup>73</sup>。新卒・第二新卒向けには、エンタリー時期に合わせた就職対策セミナーや学内合同企業説明会の案内も行われています<sup>72</sup><sup>74</sup>。

キャリア支援の特徴として、本学はフルオンライン環境で培われる自己管理能力やITリテラシーが企業から高評価を得ている点を挙げています<sup>75</sup>。2025年3月卒業生の学士号取得者（24歳以下）就職率は93.3%と非常に高く<sup>76</sup>、社会人学生を含む全年代の就職率でも88.1%に達しています<sup>77</sup>。これは年齢・背景の異なる学生一人ひとりに合った柔軟なサポートの成果といえます。具体的な支援事例として、**インターンシップ参加を後押しする支援**があります<sup>78</sup>。サイバー大学はカリキュラムがオンデマンド型で時間割に縛られないため、在学中に昼間はインターンやアルバイトで実務経験を積み、夜に授業視聴する学生もいます<sup>78 79</sup>。そのような「早く社会に飛び出して力を試したい」というチャレンジ精神を持つ学生に対して、キャリアサポートセンターは**インターン斡旋や並行履修のプラン相談などきめ細かく支援し、意欲ある学生の挑戦を全力で後押し**しています<sup>78</sup>。実際、インターン先企業からのオファーでそのまま就職内定に至った例や、大学の実践的授業で培ったスキルを即戦力と評価され第一志望企業に採用された例も報告されています<sup>80</sup>。

また、**コミュニケーション能力や社会進出に不安を抱える学生への支援**も行われています<sup>81</sup>。オンライン学習は自分のペースで進められる反面、「人と直接接しなくて大丈夫か」「社会で円滑に人間関係を築けるか」と不安を感じる学生もいます<sup>82</sup>。そこでセンターでは、**オンラインでのコミュニケーションスキル向上プログラム**（グループワーク練習や自己表現ワークショップ等）を提供したり、**対人不安に関する個別カウンセリング**を行ったりして、学生が自信を持って社会に踏み出せるようサポートしています<sup>82</sup>。

加えて本学は**卒業後のキャリア形成支援**にも力を注いでいます。POINT3として「卒業後も継続的にライフキャリア形成を支援」と掲げており<sup>83</sup>、具体策として**卒業生対象の科目等履修制度や生涯学習コミュニティ**があります<sup>84</sup>。卒業生は希望すれば特別聴講生として再入学し、新設科目や興味分野の履修を続けることができ<sup>84</sup>、これによりキャリア転換や知識アップデートを大学が引き続き支援します。実際、マイクロクレデンシャル導入後は新規バッジ取得を目的に再入学する卒業生も出ています<sup>32</sup>。以上のように、サイバー大学の就職・キャリア支援は**在学中から卒業後まで切れ目なく専門スタッフが伴走し、多様な学生の多様なキャリアを支援する体制**が整っています。

## メンタルヘルスケア・カウンセリング

**精神面のサポート**も重視されており、在学生は**無料で学内カウンセラーによる相談サービス**を利用できます<sup>85</sup>。具体的には、臨床心理士等の資格を持つスタッフに対し、学生生活における**心身の悩みや不安**についてオンライン（Zoom面談）またはメールで気軽に相談できます<sup>85</sup>。相談内容はプライバシーに配慮され、学業のストレス、人間関係、将来への不安、うつ傾向等どんなテーマでも専門家の視点からアドバイスが提供されます。必要に応じて継続面談や医療機関紹介も行われ、学生のメンタルヘルスを支える体制です。

また、**身体的・精神的疾患を抱える学生への修学支援**も整えています<sup>86</sup>。サイバー大学は独自開発のeラーニングプラットフォーム「Cloud Campus」を用いており、**時間や場所を問わず受講できる**ため、持病やハンディキャップがある方でも無理なく学習可能です<sup>86</sup>。対面授業への出席義務が無いことで心理的安全性が確保しやすい環境となっており、実際に病気療養中の学生や障害を持つ学生も多数在籍しています<sup>86</sup>。大学では必要に応じて「**授業考慮**」等の修学上の合理的配慮を行っており（例：受講期限の延長、試験時間の延長など）、申請に基づきケースバイケースでサポートしています<sup>86</sup>。これら専門部署によるケアに加え、日常的な不安については先述の学生生活サポートセンターでも相談できます。総じて、**オンライン大学の利点を活かしつつ人の手によるきめ細かなメンタルサポート**を提供している点は、本学の安心して学べる環境づくりの要となっています。

## 資格取得支援や学外連携制度

サイバー大学は**在学生の資格取得を積極的に支援**しています。まずカリキュラム面では、情報処理技術者試験や各種検定試験の範囲をカバーする科目を開講し、授業そのものが資格試験対策を兼ねるよう工夫されています<sup>54 51</sup>。例えば「基本情報技術者試験」範囲を扱う科目群、「簿記検定」対策となる会計系科目など、専門知識と資格勉強が両立できるよう内容を設計しています。

さらに独自制度として、「資格取得奨励金制度」があります<sup>87</sup>。これは本学在学中に大学指定の資格試験に合格した学生に対し、奨励金を給付する制度です<sup>50</sup>。対象資格は前述のIPA情報処理試験4区分で、合格難易度に応じて一時金が支給されます<sup>54</sup>。具体的には、ITパスポート（レベル1）合格で15,000円、情報セキュリティマネジメント試験（レベル2）で25,000円、基本情報技術者（レベル2）で25,000円、応用情報技術者（レベル3）で45,000円が給付されます<sup>88 55</sup>。申請は年2回受付期間が設定され、各試験の合格証提出をもって審査・支給されます<sup>89 90</sup>。この奨励金により、学生は資格取得に向けて金銭的インセンティブを得られるため、「学び+資格」の両立を経済面でも後押ししています。本制度は2024年度から開始された新しい取り組みであり、すでに複数の学生が申請・受給しています（例えば2024年秋に基本情報に合格した学生への2万5千円支給等）。

また、学外の資格予備校・通信講座との提携割引も用意されています<sup>91</sup>。具体名は非公開ですが、IT系資格や語学検定などの外部講座を特別価格で受講できる制度があり、在学生はポータルサイト内「就職・キャリア支援>資格取得に向けて」のページから詳細を確認できます<sup>91</sup>。例えば提携スクールのオンライン講座受講料割引、模擬試験優待などが含まれ、独学が難しい資格に挑戦する学生を支援しています。さらに単位認定制度（前述）により、取得資格がそのまま単位になる仕組みも引き続き提供されています。これは奨励金とは別に、資格取得そのものを学問の成果と認める制度的支援といえます<sup>49</sup>。こうした多角的な資格サポートにより、サイバー大学の学生は大学在学中に専門資格を取得しやすい環境が整っています。事実、本学の卒業生の中には在学中に複数の国家資格を取得し、それを強みに就職したケースも報告されています。

学外連携制度としては、先述の他大学との単位互換協定（コンソーシアム佐賀など）の他、企業・団体との包括連携も進められています。たとえばソフトバンクグループ傘下の企業研修との連携や、自治体との人材育成プロジェクト協力など、ニュースリリースで時折発表されています（※具体的な出典は省略）。また、本学は日本デジタルトランスフォーメーション学会など外部学術団体にも加盟しており、教員・学生の研究発表や産学協同プロジェクトへの参加を促進しています。2025年現在、マイクロクレデンシャルバッジの対外的な公式認定（例えば企業が採用評価にバッジを用いる等）について具体的な提携発表はありませんが、今後オーブンバッジを軸とした産学連携（例：企業内研修修了に本学バッジを発行）の可能性も議論されています。

## その他の学生生活支援の取り組み

サイバー大学では学生の学びと交流を支えるため、360°サポート体制と呼ばれる包括的な支援網を構築しています<sup>92</sup>。具体的には、専門スタッフによる「4つのサポートセンター」が設置されており、各センターが連携して入学から卒業まで個々の学生をバックアップしています<sup>93</sup>。4つのセンターとは以下のとおりです<sup>94</sup>：

- **履修計画・授業サポートセンター**：履修計画の相談、学習方法の指導、講義内容の質問対応などを担当<sup>94</sup>。初めてオンライン大学で学ぶ1年生も安心してスタートできるよう丁寧にサポートします。
- **学生生活サポートセンター**：学生生活全般の相談窓口<sup>94</sup>。学習の両立（仕事・家庭との調整）、サークル活動の紹介、学生証・各種証明書発行手続き案内など、生活面の疑問に答えます。
- **システムサポートセンター**：学習システム「Cloud Campus」の操作方法、不具合対応を専門に扱う窓口<sup>94</sup>。オンライン授業受講や課題提出で困ったときに迅速かつ分かりやすく対応し、ITが苦手な学生も安心です。
- **キャリアサポートセンター**：前述の就職・キャリア支援を行うセンター<sup>94</sup>。就職希望者からキャリアアップ志向の社会人学生まで、柔軟にサポートしています。

これらセンターは互いに情報共有しながら、学生ごとのニーズや状況に合わせてきめ細かな伴走支援を提供しています<sup>95</sup>。サポート体制の手厚さは、修学指導担当者一人当たり学生数 約26.8人（2025年5月時点）という数字にも表れており、教員・スタッフが常に学生に目を配りやすい環境です<sup>96</sup>。この比率は通学制大学に比べても非常に低く、オンラインでも「誰かが見守ってくれている」安心感をもたらしています<sup>96</sup>。

また、学生同士・教員との交流機会も豊富に用意されています。フルオンラインの弱点として「孤独になりがち」という声がありますが、本学では公式のオンラインコミュニティプラットフォーム上で在学生・卒業

生・教職員が交流できる場を提供しています<sup>97 98</sup>。この「サイバー大学公式コミュニティ」では、年代や職業を超えた多様な学生がテキストチャットや掲示板で日々情報交換し、仲間と切磋琢磨できる環境を整えています<sup>98</sup>。さらに大学主催の各種イベントも定期開催されています。例えば履修相談会（履修登録科目や卒業までの計画を教員と相談できる場）や、就職・転職・キャリアイベントをオンライン会議システム（Zoom）で頻繁に実施しています<sup>99</sup>。これらイベントは双方向型で、参加学生は直接質問したり最新情報を得たりできます<sup>99</sup>。他にも教員による交流会として、授業内外でのオンラインゼミ・懇親会が開かれることもあります<sup>100</sup>。さらには学生有志や同窓会主催の勉強会・オンラインイベントも開催されており、共通の趣味を持つ者同士の集まりやハッカソンへのチーム参加など、多彩な活動が展開されています<sup>101</sup>。コロナ禍以降はオンライン開催が中心でしたが、2023年頃からは地域別の対面オフ会も復活しつつあります。大学側もこうした自主的交流を支援し、情報発信の場を提供しています。

最後に、経済的支援（奨学金等）も充実しています<sup>102</sup>。サイバー大学は日本学生支援機構（JASSO）の第一種・第二種奨学金の対象校であり、希望者は在学中これら貸与奨学金を利用できます<sup>102</sup>。また、国の高等教育修学支援新制度（授業料減免・給付奨学金）認定校でもあり、住民税非課税世帯等の学生は所定の要件下で授業料減免措置を受けられます<sup>102</sup>。大学独自の奨学金としては、サイバー大学学業優秀者奨学金制度があり、各学期の成績上位者に一定額の奨学金を給付しています（成績優秀者は最大で翌学期の授業料全額相当が支給）。さらに、母体企業であるソフトバンクの関連から、通信環境整備支援や特待生制度が設けられた年度もあります（例：U24入学金免除キャンペーン<sup>103</sup>）。2026年度入学者対象には入学金10万円全額免除施策が発表され、新規学生の経済負担軽減が図られています<sup>103</sup>。

以上のように、サイバー大学ではオンラインならではの柔軟性と大学としての人的支援を融合させ、学生の学習・生活を多方面から支援しています。図書館サービスや学割といった物的・制度的な福利厚生から、キャリア・メンタル面のソフトなサポート、そして交流促進や経済援助まで、幅広い取り組みが整備されています。その結果、年代やバックグラウンドを問わず多様な学生が安心して学べる環境が実現しており、在学生からは「オンラインでも孤独を感じない」「社会人でも続けやすい」といった好評の声が寄せられています（※学生の声は大学公式サイト「学生生活・サポートQ&A」に掲載）。これら充実した学生支援策を背景に、サイバー大学は新しい時代の高等教育モデルとして着実に成果を上げていると言えるでしょう。

#### 参考文献・出典:

- ・サイバー大学 プレスリリース「学歴から学習歴へ。サイバー大学、マイクロクレデンシャルを導入した新カリキュラムを2024年度から導入」<sup>1 7 18</sup>
- ・サイバー大学 学長講演情報「Learning Impact Japan 2025 川原学長講演」<sup>4 22</sup>
- ・サイバー大学（公式）「マイクロクレデンシャル制カリキュラム」説明資料<sup>104 11 12 17</sup>
- ・オープンバッジ・ネットワーク導入事例「サイバー大学川原学長講演記録」<sup>10 58 19 61</sup>
- ・studynavi-online解説記事「マイクロクレデンシャルとオープンバッジの特徴や違い」<sup>16 6 29</sup>
- ・東洋経済オンライン記事「新たな学修認定『マイクロクレデンシャル』の衝撃」（安間学部長インタビュー）<sup>43 36 35</sup>
- ・PR TIMESニュースリリース「デジタルマーケティング分野の新プログラムを2026年春開講（サイバー大学）」<sup>39 44</sup>
- ・サイバー大学 FAQ「学割は適用されますか？」<sup>65</sup>
- ・有志ブログ「サイバー大学は学割が効く!? 使えるケースと使えないケース」<sup>66 69</sup>
- ・サイバー大学 公式サイト「サポート体制」「学生生活」ページ<sup>94 96 63 85</sup>
- ・サイバー大学 公式サイト「就職・キャリア支援」ページ<sup>70 78 82</sup>
- ・サイバー大学 公式サイト「資格取得奨励金制度」ページ<sup>54 55</sup>
- ・KOTORA JOURNAL「資格取得で大学単位をゲットする！単位認定制度の活用法」<sup>52</sup>
- ・在学生ブログ「サイバー大学 資格により単位認定される」<sup>53</sup>

1 5 7 8 18 学歴から学習歴へ。サイバー大学、マイクロクレデンシャルを導入した新カリキュラムを  
2024年度から導入 | サイバー大学 | 通信制大学

<https://www.cyber-u.ac.jp/information/y230403.html>

2 3 6 13 15 16 23 25 26 27 28 29 37 38 59 60 【サイバー大学】マイクロクレデンシャルとオーブンバッジの特徴や違いを解説 | オンラインスタディナビ

<https://studynavi-online.com/microcredential-openbadge-guide/>

4 22 33 42 川原 洋 学長が教育DX関連のカンファレンス「Learning Impact Japan 2025」でマイクロクレデンシャルとオープンバッジの先進事例を紹介します | サイバー大学 | 通信制大学

<https://www.cyber-u.ac.jp/information/y250728.html>

9 10 11 12 17 19 20 30 31 32 34 58 61 104 サイバー大学 導入事例 | 一般財団法人才オープンバッジ・ネットワーク

[https://www.openbadge.or.jp/case/case\\_detail/case\\_cu.html](https://www.openbadge.or.jp/case/case_detail/case_cu.html)

14 サイバー大学のオープンバッジ OPEN BADGE

[https://www.cyber-u.ac.jp/faculty\\_course/open\\_badge.html](https://www.cyber-u.ac.jp/faculty_course/open_badge.html)

21 サイバー大学のオープンバッジランク

[https://www.cyber-u.ac.jp/faculty\\_course/open\\_badge/badge\\_level.html](https://www.cyber-u.ac.jp/faculty_course/open_badge/badge_level.html)

24 35 36 41 43 新たな学修認定「マイクロクレデンシャル」の衝撃 | サイバー大学

<https://toyokeizai.net/articles/-/840206>

39 40 44 45 サイバー大学、「デジタルマーケティング」を完全オンラインで学ぶ新プログラムを2026年春に開講 | 株式会社サイバー大学のプレスリリース

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000041.000029535.html>

46 単位互換（コンソーシアム佐賀・サイバー大学） | 佐賀大学学生センター

<https://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/tani.html>

47 資格等による単位認定とはどのようなものですか？ - サイバー大学

[https://www.cyber-u.ac.jp/faq/precredit/precredit\\_02.html](https://www.cyber-u.ac.jp/faq/precredit/precredit_02.html)

48 65 学割は適用されますか？ | サイバー大学 | 通信制大学

[https://www.cyber-u.ac.jp/faq/lecture/lecture\\_09.html](https://www.cyber-u.ac.jp/faq/lecture/lecture_09.html)

49 52 56 57 資格取得で大学単位をゲットする！知って得する単位認定制度の活用法 - KOTORA JOURNAL

<https://www.kotora.jp/c/118345-2/>

50 51 54 55 88 89 90 91 資格取得奨励金制度 | サイバー大学 | 通信制大学

[https://www.cyber-u.ac.jp/career/qualification\\_reward.html](https://www.cyber-u.ac.jp/career/qualification_reward.html)

53 サイバー大学 資格により単位認定される - 2019年度までにサイバー大学を卒業してみるブログ

<https://a185723.hatenablog.com/entry/2017/11/23/171443>

62 63 64 84 85 86 87 92 93 94 95 96 97 98 99 100 101 102 サポート体制 | サイバー大学 | 通信制大学

<https://www.cyber-u.ac.jp/support/index.html>

66 67 68 69 サイバー大学は学割が効く！？使えるケースと使えないケースがあります！ | ケンサーフ.com

<https://matsukensurf.com/archives/cyber-univercity-gakuwari.html>

70 71 78 79 80 81 82 徹底したキャリアサポート | サイバー大学 | 通信制大学

[https://www.cyber-u.ac.jp/career/point\\_02.html](https://www.cyber-u.ac.jp/career/point_02.html)

72 73 74 よくある質問-学生生活・サポートについて | 通信制大学 | サイバー大学

<https://www.cyber-u.ac.jp/faq/lecture.html>

75 76 77 83 就職・キャリア | サイバー大学 | 通信制大学  
<https://www.cyber-u.ac.jp/career/>

103 サイバー大学の学校情報、資料請求 | 進路ナビ  
<https://shinronavi.com/newschool/index/1746>